



pentagon & the gardens



四つの庭がゆるくつながる五角形のコミュニティーセンター

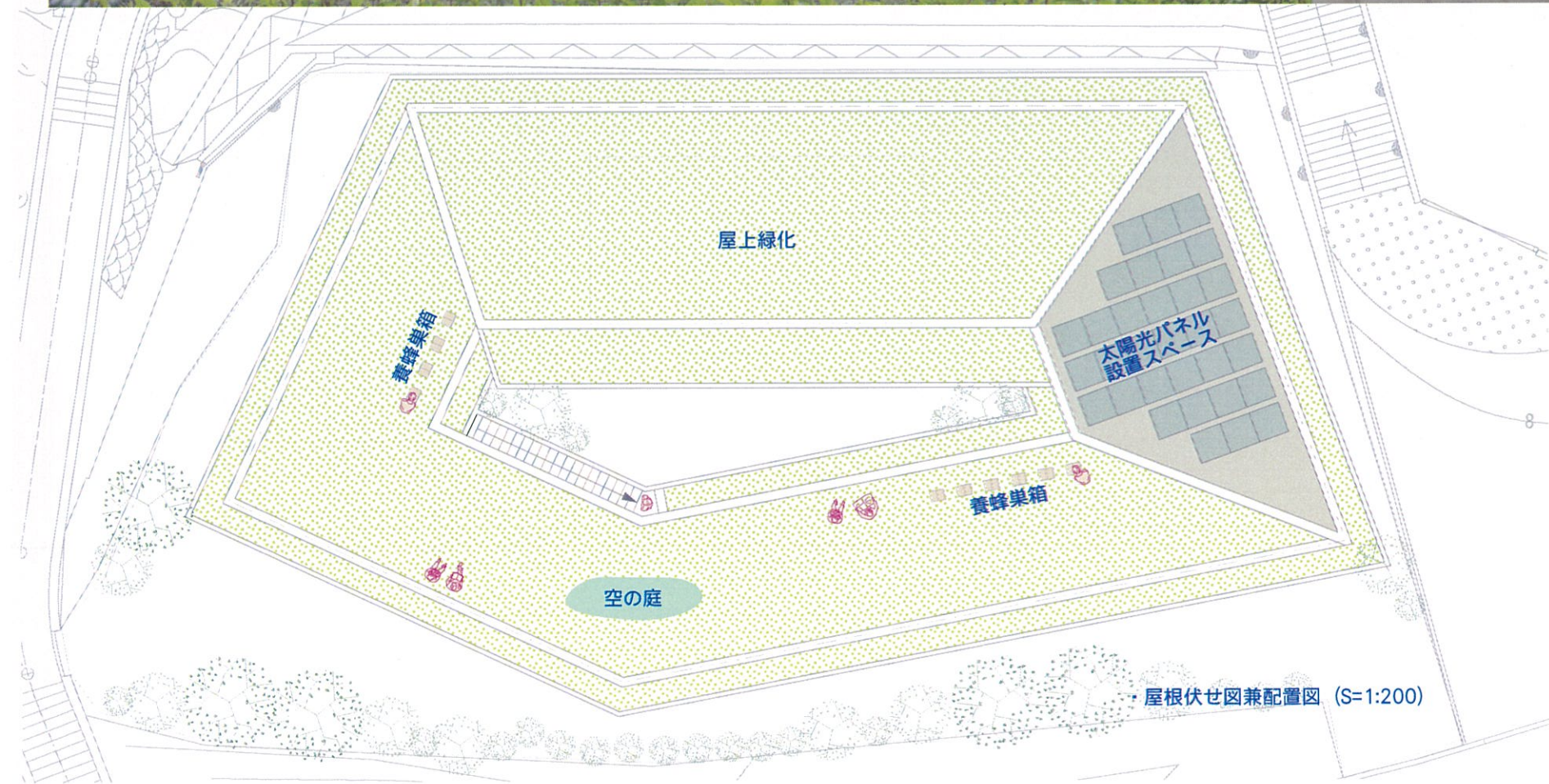
市民交流の活動拠点として、ガーデニングを始め自然を享受する様々なサークルが同時に利用し賑わいが溢れる建築を模索しました。

まず、敷地の形状から台形のアウトラインを抽出し、利用者をスムーズに迎え入れるために表情をつくとシンプルな横長の五角形が導き出されました。

そして必要な機能を五角形の中に盛り込む際に「半屋外的空間」をどう捉えるかが鍵になりました。大屋根で覆われたひとまとまりの空間＝庭を置いて考えると、想定されている多様な利用方法がイメージできません。そこで考えたのが一つの塊ではなく個々のつながりから成り立つ庭です。性質の異なる庭をいくつか設けそれらを緩くつなげる事で利用方法の幅を広げられないか、それぞれの庭が生み出す雰囲気やほど良い距離で相互作用し賑わいが生まれるのではないかと、気ままに回遊していると屋上にも誘われ、そこでのんびりと雲を眺めたりするのも気持ちが良いのではないかと考えました。

敷地に入ってまず利用者を迎えるのは風の庭です。屋根のある回廊のような空間に縁台が置かれ心地よい風が抜けます。縁台はベンチとしての機能は勿論、バザーや椿の品評会をする際の台としても活躍しそうです。その先にあるのは光の庭です。通り雨のあとは芝生の緑がきらきらと眩しく輝くでしょう。マットを敷いてヨガをするのも気持ち良さそうです。そして敷地奥にあるのは水の庭です。雨水を利用した池には蓮が花を咲かせメダカが泳いでいます。水草の種類についてのレクチャーが始まりそうです。池に掛かる階段を上ると草花でおおわれた空の庭があります。季節の花に埋もれて養蜂の巣箱が見えます。そろそろ蜂蜜が収穫できるかもしれません。風、光、水、空と名付けたこれらの庭は、イベントの際には舞台にもなる多目的スペースと向き合っています。風の庭と水の庭は夏の陽射しや雨を屋根でしのぎながら、光の庭と空の庭は春先や秋口の陽射しを浴びながら、利用者それぞれが好みの場所で舞台を見ることができます。

五角形の各辺にそれぞれの空間に適した要素を配置する事で、利用者が自然に対する好奇心の扉を開く場として、また奥武山公園の新たな憩いの場としてのコミュニティーセンターになるものと考えています。



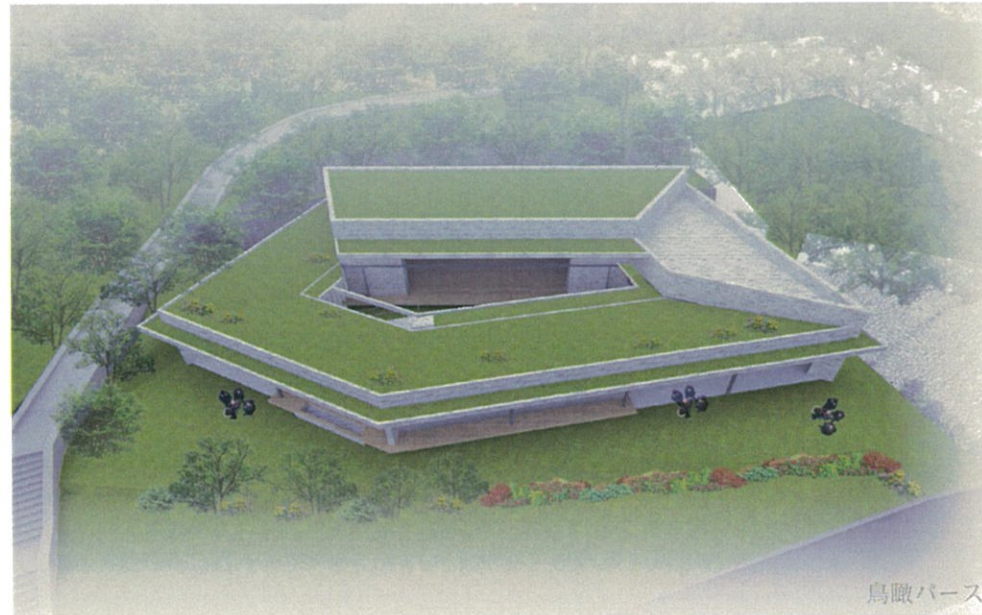


敷地南西側から水の庭、風の庭側を見る

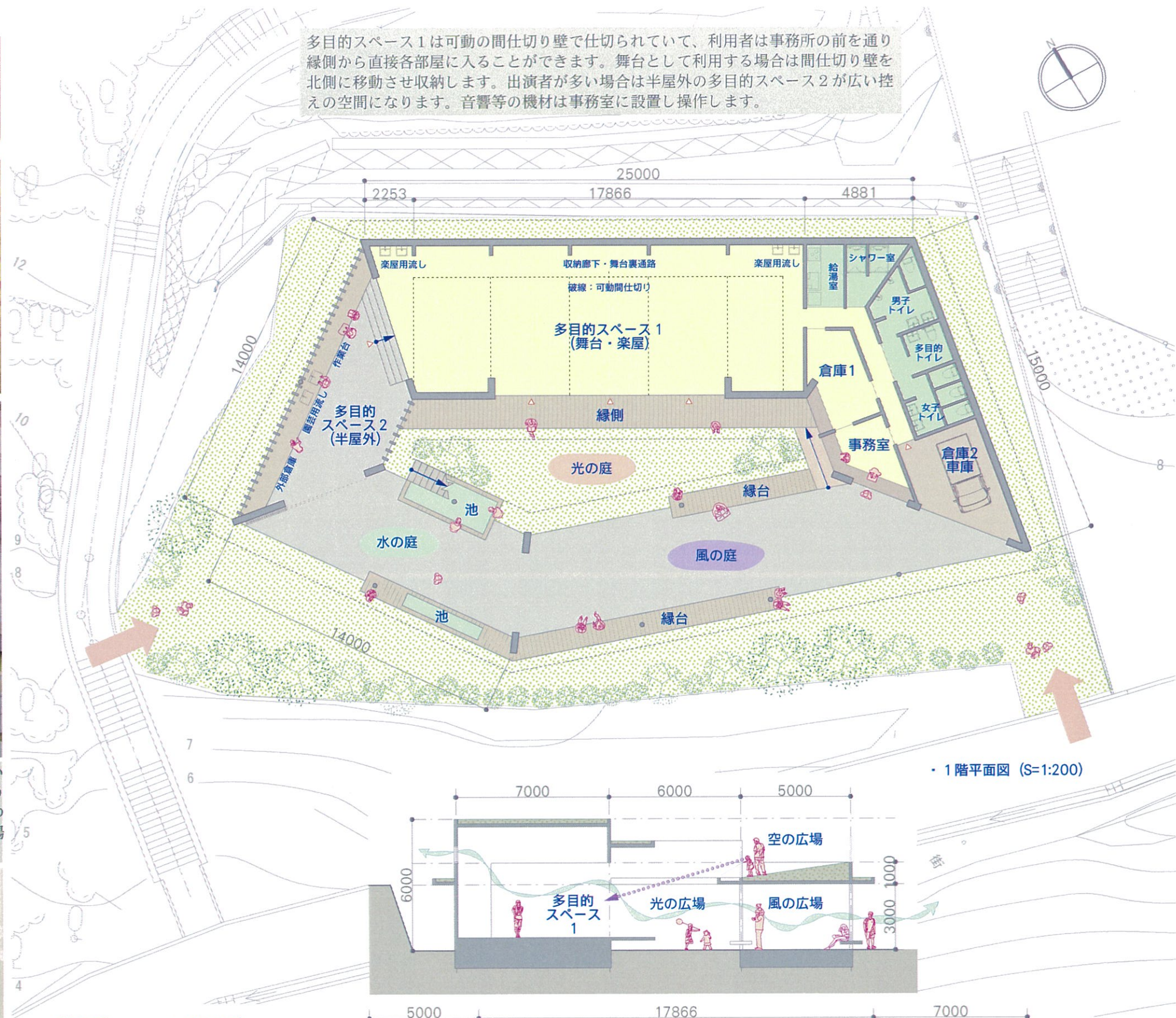


風の庭から水の庭、多目的スペース2側を見る

自然を感じながら自然を学ぶ場ともなる当施設は、自然環境に対して負荷の少ない施設を目指します。屋上緑化で躯体の蓄熱を最小限に抑え、空気の流れを促すよう開口部を計画し、できるだけ空調設備の利用を抑えるようにします。また屋根をつたう雨水を屋外倉庫下の雨水ピットに貯水し中水利用します。事務室の屋上は太陽光パネルを設置する事も可能です。



鳥瞰パース



建築面積	: 409.09㎡
延床面積	: 216.21㎡
建築部分	
多目的スペース1	: 132.95㎡
事務室	: 9.73㎡
水廻り+その他	: 42.37㎡
倉庫1+倉庫2	: 31.17㎡
半屋外部分	
風の庭+水の庭	: 148.86㎡
多目的スペース2	: 44.02㎡

